

受付番号第3号、平野由里子君の一般質問を許します。登壇願います。

4 番 平 野 議長のお許しが頂けましたので質問させていただきます。受付番号第3号、質問議員、第4番 平野由里子です。件名、プラスチックの町をめざして。

要旨。今年の2月、県西2市8町の首長が、プラスチックゼロ宣言をいたしました。県でも2018年、鎌倉の海岸にシロナガスクジラの赤ちゃんが打ち上げられたことをきっかけに、プラスチックゼロ宣言をしております。どちらも、クリーン活動や使い捨てプラスチックの削減、教育や啓発をうたっております。また、町はSDGs未来都市としても努力をされておりますが、一層の取り組みが求められていると思います。そこで、以下のことをお聞きします。

(1) 町内の公的施設で使用されている人工芝シートなど、プラスチック片の流出防止策はどのようにされていますか。

(2) 今後、さらに、人工芝の設置を検討されていますか。

(3) プラスチックについての教育や啓発はどのように実施されておりますか。

以上、よろしく申し上げます。

町 長 平野議員の御質問に、順次お答えをいたします。結論から申しますと、一層の取り組みが求められていると、私もそう思っています。

それでは、1つ目の御質問にお答えをいたします。プラスチックは、特に野外では太陽光等の影響による劣化や破損が発生することで、河川など自然環境への流出が懸念されております。現在、町内の公的施設での使用場所を申しますと、川音川パークゴルフ場や子どもの館、寄テニスコート、生涯学習センター、小規模保育などはなどで人工芝を、酒匂川親水広場などで土のうやブルーシートを使用しております。これらにつきましては、劣化などが発生した場

合、自然環境にプラスチック片が流出してしまうおそれがございますので、定期的に点検を行い、劣化や破損のおそれがある場合は交換を行う、また実際に劣化や破損によりプラスチック片が発生した場合には、回収を行うことによって、自然環境への流出の防止を図っております。しかしながら、このような人的な防止対策であるため、さらなる徹底と意識向上が必要であるとも考えておりますので、プラスチック製品の利用に関するガイドライン等を定め、具体的な対応を行ってまいりたいと考えております。

続いて2つ目の御質問にお答えいたします。現在のところ、大規模な設置場所といたしまして、寄みやま運動広場や松田中学校グラウンドにおいて人工芝の設置を考えております。製品の選定に当たっては、今の時代に即し、環境に配慮した製品の選定をするなど、もしもプラスチック片が流出した場合でも、地球環境に影響がない製品の設置を考えております。今後、そのほか設置をする、大小の製品がある場合にも同様に、環境に優しいエコな製品を使用するよういたします。

3つ目の御質問にお答えをいたします。プラごみの削減及び再資源化に向けては、町民の皆様お一人一人の日常的な取組や協力が不可欠でありますので、効果的かつ継続的に環境教育や啓発を行っていくことが、とても重要と考えております。環境教育といたしましては、本町では地球温暖化対策として、平成28年度から行っておりますクールチョイス普及啓発事業の一環として、廃プラスチックに関連するワークショップや講座を開催しております。今後は、プラスチック汚染問題を取り上げた映画の上映会や、また、県西地域2市8町のプラごみゼロ共同宣言に伴い、小田原市の海岸などでのフィールドワーク等を含む小学生向けの環境教室の開催など、2市8町共同での取り組みを含め、環境教育を推進してまいります。

啓発の面では、町のイベント時における、海洋プラスチック問題に関するパネルの展示、エコバッグの配布。また、毎年5月の酒匂川統一美化キャンペーン、11月の丹沢大山クリーンキャンペーンなどの美化活動を通じて啓発を行ってまいりました。今後は、地球環境に影響を及ぼす危険性のある製品は、原則使用しないことを念頭に置き、これまでの取組を継続するとともに、例えば家庭から出るペットボトルを100%リサイクルするための家庭用ペットボトル圧縮機の配布や、資源ごみの拠点回収の実施に併せて、町民が自発的な動きを生み出すための環境づくりなど、環境に対する危機意識を高めるための啓発に取り組んでまいります。以上でございます。

4 番 平 野 御回答ありがとうございます。それでは、一つ一つ再質問をさせていただきます。

こちらの質問に関しましては、プラごみという一つの、何ていうか、普通名詞のような形で件名を掲げさせていただいたんですが、メインはマイクロプラスチックということになると思うんですけども。プラスチックごみというのは、様々なタイプがございますけれども、結局、紫外線などにより劣化していくと、どんどん細分化されていくんですね。そして、5ミリ以下となったものをマイクロプラスチックというふうに現在呼んでおります。このマイクロプラスチックというのは、魚や貝が食べてしまう、海鳥なども食べてしまうということで、その生物に対しても脅威であり、また、食物連鎖の中で、最終的に人体にも取り込まれているということが非常に心配されております。その影響はまだ完全には解明されていないんですけども、研究途上ということなんですが、何らかの影響があるのではないかということになっております。冒頭の、鯨が打ち上げられたという事件ですが、これも原因としては、体内に蓄積されたプラスチックではないかというふうに言われております。あんな

大きな生き物に対しても、何らかの影響があるということが、非常に心配されております。

人体に対しては、研究途上ではありますが、今年の1月、世界自然保護基金、いわゆるWWFですね、これが飲料水や海産物を通し、人類、人間が既に、週に最大5グラム、これクレジットカード1枚分なんですけども、それを摂取している可能性がある、新聞発表にありました。人体の影響に対しては、まだ未知な部分もあって、排出できるのか、それとも吸収しているのかっていう、その辺もまだちょっと分からないんですが、既に人体に入っているんだということは発表されました。

そしてまた、このプラスチックの怖いところは、化学物質と非常に親和性が高いという部分があるんですね。水中に漂っているうちに、同じく漂ってきている化学物質、これもまた膨大なものになっているんですが、例えば塗料から出てきたり、薬品、化粧品、洗剤などにたくさん含まれているので、そういったものと吸着していつてしまうと。つまり、マイクロプラスチックを取り込むということは、これらの物質も一緒に取り組んでいることになるということなので、その辺りがどのように生命に影響しているのか、この辺りも完全には解明されていないものですが、非常に心配はされているということです。

こちらの質問の直接のきっかけとなったの、5月15日、先ほど町長の行政報告にもありましたが、酒匂川クリーンキャンペーンに私も参加したんですけども、川音川のパークゴルフ場方面がうちの地域の担当だったものですから、歩いて行ったところ、パークゴルフ場が分かれて小さな川があるんですが、それを渡る木の橋の上に、緑のシート、いわゆる、あれも何ていうか、一番シンプルな人工芝と呼べるんですが、それがぼろぼろになっているのを発見い

たしました。そのとき、大きなかけらは一生懸命拾ったんですが、本当に小っちゃくなっちゃった一つ一つの芝の形をした物質は、とても拾いきれなくて、担当者、集合場所に戻って、担当の方に報告をして写真も見せて、ほうきなどで集めて処理してほしいということをお願いをしてきたんですね。多分やってくださったと思うんですけども、その後、気になって、もう一回、先週見に行ったら、またぼろぼろになっていて、結局、そのくらいもろいものだったということなんですよね。なので、非常にこれは大変だなと思って、今回取り上げさせていただきました。

先ほどのお答えの中で、町内の施設どのくらい、こういった人工芝のようなものが使われているのかということで、全課的な調査をしていただいたのかな、それぞれ回答がありまして、私も思ったところ、ああそうだなっていうところが、大体挙げられていたかなって思います。そして、それについて、どのような防止策があるかという点につきましても、お答えの中では、これがちょっとはつきりされてなかったかなっていうのがあるので、ちょっとこの辺り、もう一回確認したいんですけども。実際に、劣化や破損によってプラスチックが発生した場合には、回収を行うことによりというふうなことで防止を図っているというふうなことだったんですけども、5ミリ以下になっちゃうと本当に拾うのは大変なんですね。どのようにして、その回収を行っているのかというのを伺いたと思います。

観光経済課長

お答えをさせていただきます。まず初めにですね、川音川パークゴルフ場、こちら担当している観光経済課でございます。美化デーのときには、大変御迷惑をおかけして、ありがとうございます、申し訳ございませんでした。また、ありがとうございます。御指摘を受けまして、すぐに対応はさせていただいたんですけども、その

後もすぐ、行ったときにですね、端から端からもろけてくるという状況は、確かに御指摘のとおりでございました。当課が例えば所管する場所がですね、先ほど答弁にもありましたとおり、公園ですとか、こういった場所が多いものでですね、いろんなところにシート、プラの関係のシートがございました。各場所がですね、やはり相当程度、もう損耗してるということで、ここは更新もしくは別のもの、今回のお話をきっかけにいたしましてですね、ひとつ環境に配慮したような、単純なこういったプラでいくんではなくて、耐久性も含めたものの製品の選定を今、しております。

御指摘にありました、特にパークゴルフ場のその新旧のホールを渡す橋のところ、あそこは川の上で、より自然に近いところ、そしてマイクロプラスチックの話ありましたけど、やっぱりそういった面では非常に厳しい場所だと思いますので、この場所に、そもそも敷いているのは、御高齢の方が多く使われるに当たってですね、やっぱりすべり止めを少ししなければいけないと、そういう趣旨で設置したものではございますけども、そこをですね、しっかりできるようなものの今、対応を、別で取り替えようとしています。下の木をどう、滑らないで安心に行っていただけるかということで、一応、対応を今、考えているということでございます。

4 番 平 野 本当に、当日もね、すぐに対応していただいたようで、ありがとうございます。あの日も、夕方から雨というね、予報になっていたので、とても心配していたんですが。結局、先週行ったところ、また同じようになっていたというので、たまたま、ちょっとプレーをされていた方が知ってる方だったんで、ちょっとおしゃべりしてたんですが、どうもね、人間だけじゃなくて、軽トラがあそこを渡るっていうんですよ。あれはちょっと、いくら耐久性があるものを用意、更新したとしても、ちょっと、その軽トラで耐えられるのかな

ってというのは、ちょっと大変だなって思うんですが、何かその辺のところは聞いてらっしゃいますか。

観光経済課長      お答えをさせていただきます。パークゴルフ場、整備、管理に当たりましては、今年度も委託をさせていただいております。そちらの事業の中でですね、場内の作業に併せて、そこに今、重機…重機じゃないですね、車を含めて動くことがあります。ただ、橋も大分、ちょっとね、老朽化をしてますので、少しそこから問題はあるはあるんですけども、先ほど申し上げたとおり、今のシートは、別のものの今、代替を調整しておりますので、それが替わり次第、替えようということで考えております。

4 番 平 野      ありがとうございます。いろいろ、私が懸念するところは、既に担当課のほうでいろいろと動いてくださっているようで、ぜひ、そのまま、ちょっと注意をして、よろしく願いいたします。

先ほど、ガイドラインを作るんだというようなことも、お答えに、最初のお答えにありましたけども、ガイドライン、本当に必要だなと思うんですね。劣化の目安であるとか更新の時期であるとかね、その辺が、しっかりとしたほうがいいなと私も思っているのです。やはり、物によって、あるいは設置する場所によって、大分劣化は違ってくるかなと思うので、画一的に何年とかいうふうに書くしかないのかなとは思いますが、やはり人の目で、実際の感覚で常に注意をしていただけるとありがたいなと思います。その辺は、ガイドラインを作られるときに作って、その、何ていうのかな、それを実施するだけではいいんだということじゃなくて、柔軟に運営をしていただきたいと思います。

先ほど、1つ目の回答にあったところで、どこだったかな、寄のテニスコートなどもありました。中学もテニスコートあるんですよ。この辺りも一度更新をしたのを、私たちが立ち会った、議員

も立ち会って1回見に行った記憶があるんですけども、やはり、時々通りかかるときに見ていると、やっぱりちょっとまた薄くなってるのかなみたいなどころがあるんですけども、こちらは、あのコートには流出の防止とかは、どうなっているのか分かりますか。

教 育 課 長 寄テニスコートと松田中学校のテニスコート、松田中学校のテニスコートについては2面ございます。どちらのコートも、砂入りの、目砂っていう砂入りのポリプロピレンのものでございます。流出防止という特別な措置は取っておりませんが、寄のテニスコートに関しましては、鍵の貸し借りのときに、よく土を払って下さいねとか、そういったことを喚起をしております。

現状を見ますと、やはり使っているところという、動くところとか、後衛の部分とか前衛の立っている部分、そういったところが埋没したりして、ちょっとくぼんでいるような現状でございます。議員がおっしゃるとおり、令和元年度に、その部分については、つぎはぎでございますが、改修した経過がございました。特に主立った、特別な、目に見えにくいものなので、改修をするといったようなことは、激しい劣化はないので、そういった措置はしておりません。

4 番 平 野 あそこは、多分これから、今後設置しようとしているグラウンドの人工芝などとは違うタイプなのではないかなというのは承知しているんですが、今おっしゃった、使用の後、出るときに土を払うようにというようなことは伝えているという話なんですけど、この要するに土のところ、プラスチック片が混じってしまうっていうことなんでしょうか。

教 育 課 長 詳しくは調べておりませんが、それはないと思われまして。

4 番 平 野 じゃあ、これ土だから、今はプラスチックの防止にはなっていない

ということですね。やはり、薄くなっている部分があるっていうことは、何かしら流出をしているのかなっていうふうに予想できますので、その辺りをもう少し調べていただいて、必要な防止策をぜひ考えていただきたいなというふうに思います。

あと、お答えの中には、生涯学習センターっていうお答えが入っていたんですが、これはあれですかね、横の入り口のところにひいてある、足をしゅしゅしゅってやるシートのことですかね。

教 育 課 長 今おっしゃったとおり、2階の青空広場の入り口の部分の緑のシートのことでございます。

4 番 平 野 そうですね。青空広場とともに、何ていうの、休日用入り口のところにも、同じような緑のシートひいてあって、あの辺もみんなね、土を、何ていうか、落とすためにぎゅっぎゅってやる場所ですので、多分劣化もしていくと思うので、気をつけてお願いいたします。そういう小規模なものは、本当に気をつけて更新をしていくっていうふうな対応しかないのかなと思うんですが、先ほど柳澤課長がおっしゃったように、耐久性があるようなね、品が出ているものならば、ぜひそういった検討もお願いしたいなというふうに思います。

それからですね、なのはなで使われていると、小規模保育施設なのはなでも使われている、これはどのような使い方をされているのか分かりますか。

子育て健康課長 小規模保育所なのはなのほうで使っているのは、ちょうど玄関の横に当たる場所なんですけど、保育室から出たところ、子供たちが遊べる場所にひいてございます。子供たちが使うものですから、劣化した場合には、すぐさま取り替えるように対応しておりますが、これから環境に配慮した、子供にも安全なもの、これから替えるときには注意していきたいと思っております。

4 番 平 野      ありがとうございます。そうですね、ぜひ、特に子供が使うものならば、本当に気をつけたほうがいいのかと思います。また、1つ、これは町の施設になるのか、スプラボは町の持ち物なので町の施設と言えるかなと思うんですが、駐車場の中の、元駐車場の建物ですね、の中の人工芝、あれは事業者が設置してくれたというようなことは、ちょっと聞いたような気がするんですが、こちらの流出策などは、町がやはり責任持つべきなのかなって思うんですが、どうなっていますか。

参事兼政策推進課長      ありがとうございます。まず、人工芝の流出という観点の中の旧土木事務所跡地ですね、いわゆるスプラボの車庫に設置してある人工芝につきましては、設置後約2年と半年が経過している中でですね、いわゆる排水溝周辺またこの人工の芝、緑の芝が剥がれていたことや、靴裏にですね、あそこ基本的には土足をしないような形を考えているんですけども、小さい子供たちが入った後の靴裏や、周辺に付着した状況は今のところ確認はされておきませんが、先ほどの小さなものという観点では、目に見えないものもありますので、今後はですね、排水溝の対策、清掃、毎日清掃しているんですけども、そういうところもきめ細かく、今もやっているんですけども、やっていきたいとは考えてございます。

また、あそこの室内の部分に設置してあるものが、室内外専用の人工芝、いわゆるエコターフ人工芝というような素材でございます。これは一応環境にも配慮し、いわゆる足元の温度がですね、通常15度程度下げられる素材として設置してあるもので、普通の人工芝、外でやる人工芝、ゴムの下地がひいてあるんですけども、あれはゴムではなくてですね、基本的、燃やせるごみとして再利用もできるというような観点の素材として利用しているというところがあります。またですね、いわゆるゴムチップというのを外でやると、

クッション、ゴムチップというのは、熱を落とすような役目もし、けが対策も含めたものなんですけども、それらも加味した上での芝としてエコターフというもので、あそこは、ゴムチップあるいは砂、一切含まれておりませんので、その辺の部分の流出というものの対策もしているというような現状で、引き続きですね、確実性については大丈夫だということはないので、町としてもガイドラインを定めた、定める前にもですね、徹底して取り組んでいきたいというふうには考えております。以上です。

4 番 平 野      ありがとうございます。本当に私もスプラポのあそこに入ったこと何回かあって、コンクリートむき出しだったところがね、ああいふふうになっているのは、見た目も本当にきれいなんですが、実際にコンクリートからの、何ていうのかな、直接の冷えみたいなのも上がりにくくて、使っている方は快適なんではないかなって思います。やはり、その分、今、鈴木課長がおっしゃったように、参事がおっしゃったように、本当に管理ですね、対応をしっかりとお願いしていきたいなというふうに思いますので、よろしくお願いたします。

それからですね、2つ目の質問の回答にあったことなんですけれども…ごめんなさい、もう一つあった。1つ目にもう一つあった。ちょっとお答えの中にも、ちゃんとブルーシートとか土のうのこともね、指摘されていて、そこまで配慮が行き届いているということで安心をしたところです。この土のうに関しても私、クリーンキャンペーンの日、同じようにパークゴルフの隅っこのほうなんですけど、幾つか置いたままになっていて、ちょっともろけているものを気がついて、それも担当課にはね、報告したんですが、土のうも実は外に置いてあるので、結構劣化しやすいということがありますので、ぜひお願いします。そしてこれは、プラスチック片が流れてし

まうという環境面と同時に、やはり、もろけてしまうと土のうの役割がなくなるというね、災害面もありますので、非常に気をつけてほしいところかなと思うんですね。あとは、パークゴルフ場では、柵みたいなものもプラスチック製のものが幾つかあるので、日が当たるところですので、劣化、気をつけていただきたいなと思いました。

あと、これはパークゴルフ場に限らないんですが、いろんなところでビニールテープはね、いろんなものを固定するのに便利で使っているんですが、これも結構、日に当たるところは特にもろもろになってくる。日が当たらなくても、人がたくさん触ったりするところは、もろもろになってくるので、そうすると、今度はプラスチックの繊維状になって、今度空気中も舞ってくるというのがあるので、なかなか対応難しくなってしまうので、もろける前に、こんなの交換しても幾らでもないものなので、見つけたらすぐに新しくするぐらいの気持ちで、ぜひ皆さん気をつけていただけると、これは全課で使われていると思いますので気をつけていただけるといいなと思います。これは要望です。

2つ目、今後の予定ということなんですけれども、お答えとしては、大規模なものとしては、みやま運動広場と松中のグラウンドというようなお答えだったと思います。選定に当たって、今の時代に即した、環境に配慮した製品を使うんだというようなことだったんですが、これは具体的にはどんな配慮になるんでしょうか、もし分かっている範囲で教えてください。

観光経済課長

お答えをさせていただきます。みやま運動広場につきましては、まだ特に予算措置とかですね、はっきりした形になっておりませんが、少しずつ検討を進め、また機会があるときにですね、地権者の方であったり、関係する方々に、こういう構想があつてというこ

とをお伝えしながら進めて、慎重に進めておるところです。対応といたしましてはですね、まず、これだけの規模の人工芝を、これからどうやってやるんだというところで、ちょっと未知数でもございましたので、例えば南足柄市のグラウンドを整備されたところを見させていただいたりですね、あと、また人工芝のその業者様から、いろいろな情報を得ております。耐久性をいかに高めるか、要は、パイルっていうんですかね、この毛の部分、これが切れていってしまう、流れてしまう、これが一番問題というところでいけば、それは当然業者さんもですね、相当に耐久性の高いもの、こういったものを御用意をされている部分がございます。ただ、やはり割高には、どうしてもなるのかなというところがありますけれども、一番、そういった業者を何か所か今、聞いてですね、環境負荷、要は流出対策というのを、あと管理、管理面は、先ほどのガイドラインもそうですけども、流出対策をいかにやるか。これは南足柄市なんかも相当に気を使いながらやっているところを見せていただきましたので、そういった部分も参考にしながら、この後の検討を進めていきたいと考えております。

教 育 課 長 中学校の芝生化につきましても、まだ具体的な検討、協議とかはしておりません。みやま運動広場と同様にですね、今後、整備というか、検討をしていくんですが、授業、体育の指導、まず学校の運営上の関係もありますので、他の事例を研究するとともに、学校の先生、地域の方からの御意見なども参考にしながら、十分に考えてまいりたいと思っております。

4 番 平 野 ありがとうございます。具体的には、私も幾つかの業者のホームページなどを見ておりますけれども、大分いろいろな対策をね、業者のほうも指摘されればやっぱり考えるというところで、いろいろな対策をしてきているというふうなことは私も承知をしております。

す。それらが本当に完璧なのかと言われるとね、ゼロなのかって言われると、なかなかゼロだとは言いきれないとは思いますが、本当に使うのであれば、限りなくゼロに近い防止策を取る、そして、適切な管理をし、お金もかかってしまうんですが、更新ですよ、その辺のそういった大規模なものを設置した場合の、そういった維持の経費、天然芝よりは安いとは思いますが、維持経費あるいは更新の頻度、更新の経費、その辺りも、ちょっと予算がまだだということなんで、その辺は全然未定なんだろうと思うんですが、もし何かそういうのが分かっていたら、ちょっと教えてください。

観光経済課長

お答えをさせていただきます。まだ、先ほど言っていたように、予算化という話の前の段階でございます。事業者も今、いろいろ聞けば、そこで出てくる見積りの数字の話でございます。みやま運動広場につきましては、グラウンドの面積が1万平米を超える大きいグラウンドです。そのうち、例えば9割程度を人工芝にやった場合、整備費用的なものは恐らく1億円は優に超える、1億5,000万ぐらいの例えば見積りがあります。これは多分、業者によって幅はございますけども、先ほど言った製品としてのその耐久性ですとか、こういったものを考えた場合には、これぐらいの費用が全体ですね、芝だけじゃなくて、全体の施工を考えたときに、これぐらいかかってくるだろうと。耐用年数については、メーカーの話でいきますと、大体7年から10年というお話がございます。ただ、先行して入れられている人工芝のグラウンドを、10年を経過しても良好に整備、管理をしておれば、10年を経過しても使えているところもあるというふうなお話でございます。ただ、更新という話になった場合には、やはり最初の初期投資に近い数字の、先ほど申した、その工事的なものを除いた部分というのが相当かかります。これも、今、業者の見積りでいけば、例えば1億とかそういうオー

ダーになる可能性があります。こういうようなのは、やはり工夫しながらやるもんだと思いますけども、今、見積りとかそういった形の調査をやっている段階では、こういった数字でございます。あくまで未確定ですので、よろしく願いいたします。

4 番 平 野 教育も同じような感じですか。

教 育 課 長 教育課でも、具体的なものは定まってないんですが、調査した中では、先ほどもありましたが、松田中学校、7,800平米のグラウンドでございます。こちらに対しても、見積もりを取った業者とか、頻度とか使い方にもよりますが、その人工芝にした場合は約1億円ぐらいはかかるというような見積りを頂いております。全面張り替えも、先ほど7年から10年とありましたが、同様なことを、とか頻度によりますが、15年といった業者もございます。現状はこの程度でございます。

4 番 平 野 ありがとうございます。思っていたより人工芝、結構高いなっていうのが、ちょっとびっくりしたんですけれども。あと、この環境面のほかに、ちょっと安全面のことも気になる情報は、いろいろちょっと入っています。例えば、人工芝は膝に負担が大きくて、けがが多いのではないかなというようなこと。これもね、対策は進んできけるというふうには私も承知しているんですが、天然芝なのか人工芝なのか土なのかということで、選手になっている方なんかは、恐らくスパイクを替えたりして対応されているのかなっていう気はするんですけれども、その辺の安全面。それから、あともう一つは、摩擦熱でやけどのような状態になるっていうことも聞きましたので、その辺。あと先ほど鈴木参事が、熱をため込みにくい、そういう芝が出てきていると、人工芝が出てきているという話をされていたんですが、私もそれは情報を入手しております。熱をため込みにくい加工をしているということで、実を言うと、緑の芝

自体はマイナス10度、マイナス15度っていうふうな実績のデータが出ている反面、結局、熱を反射させる素材を使うということで、実を言うと、その上空、その上は逆に反射する分、温度が高くなるというデータも出ているので、これに関しては、ちょっとマイナスもプラスもあるのかなっていうところがありますよね。

あと、先ほど、ゴムチップの話もね、されていて、このゴムチップに関しても、非常に心配される部分ではあるんですが、最初の頃の人工芝は、このゴムチップを古いゴムタイヤを再利用していることが結構多くて、ちょっと環境面でもやはり問題があったというようにも聞いておりますが、それもだんだん素材がよくなっているというような話も聞いておりますので、この辺もどういうふうに改良していくのか。服についてしまうので、それこそ、使い終わったときに払ってくださいとかね、そうしないと、お母さん方、洗濯が大変なのかなと思いますけども。この辺の問題、環境面以外にも、こういった論点があるのではないかというふうに思います。

また、使い勝手のことですね、ライン引きは大丈夫なのか、それから、みやまに対しては、駐車場利用も考えなきゃいけないのかなって思うんですが、そういった利用のときに耐久性はどうなのかということ。あと、サッカー用と野球用っていうのは共用できるのかっていう心配も、ちょっとあつたりします。この辺も分かっていたら、ぜひ安全面、また使い勝手の面、分かっている範囲でお願いいたします。

観光経済課長

何点かみやま運動広場に関してということでの御質問にお答えをさせていただきます。まず、安全面とか、その摩擦熱、こういったお話に関しましては、実際にですね、その製品のクオリティーのどこまでの向上かというところにかかっているのかなと思います。ただですね、南足柄市の新しくできた人工芝のグラウンド、こ

れに関しては、利用がやはり増えている。お子さんがやはり週末は、もうサッカー、ずっともういっぱい、土・日に関しては、ずっと埋まっている状況。平日に関しても高校生のサッカー部が利用する等ですね、やはりこういうところに安全面、何かの問題があれば、利用はそこまで増えることはないかなというのが、すみません、ちょっと抽象的で大変恐縮ですが、の話になろうかと思えます。議員おっしゃるように、土というもののよさもあるんですけども、逆に言えば、人工芝というもののよさを感じての御利用が増えているということが考えられるかなと思えます。

あとは、みやまの関係はですね、損耗の御懸念に関してでございます。若葉まつり、またロウバイまつりで駐車場としての利用をさせていただいております。ここがですね、やはりどうしても人工芝のところに入ると、これは損耗が早まります。早まるけれども、じゃあ、そこに車が入ったからといって、その人工芝が、ほかではまるきり使えないかという、そうではないです。車が入っても、なお使えるような人工芝があるというのはメーカーのほうに確認をさせていただきます。環境面とその強さ、いろんなものを掛け合わせていくと、どうしても費用が上がっていくのかなという懸念はございます。

お金がかかる、かかるばかりの話をちょっとさせていただいて大変恐縮ですが、当然これをやるには単費だけでやるような事業ではないと思っております。t o t oの補助金、またJ F Aの補助金、こういったものを南足柄市さんのときにも御活用なさっております。併せて指定管理者、民間の投資、こういった考え方もあると思えます。そういうものを全体的に考えて、単にお金がかかるだけではなくてですね、うまく財源を取り入れながら進めていく事業かなと考えてございます。以上です。

参事兼政策推進課長

すみません、先ほど南足柄市というところが出ましたので、実際私も南足柄市でちょっと運動して、実際に体で感じてきたことも含めてですね、回答させていただきたいと思います。まずですね、一番害がないというのが天然芝という形になると思います。その次に人工芝という前に、今3Gという人工芝があります。これ、ヨーロッパサッカー協会なんかでも、いろんなところのスタジアムで使っております。天然芝と人工芝を合わせた、環境にも配慮し耐久性も非常に高いと。コスト的にも今試験的ですけども、普通の人工芝よりやや高いというような状況もあります。

そうした観点でですね、先ほどのゴムチップ。南足柄市で使ってるゴムチップについては、植物性の部分を使った、応用したもので、さっきの反射的な部分にも非常に対応できているというような素材でやってるところでございます。このゴムチップもカラーゴムチップとって、いろんなエコの部分で、色を変えることによって温度を下げると。あとその素材についてもですね、例えばクルミの素材とか、ココナッツとか、あるいは木で松、杉などの再利用としてやってるところも研究が進んでおります。やってるところも実際に高校の学校なんかではありますので。そういう部分を含めながらですね、今後検討していきたいというふうには思っております。

またですね、メリット。先ほど柳沢課長のほうが言われましたメリットとしては、稼働日数がございます。雨の日でもできるというところで、年間普通の場合、雨で70日ぐらい中止になる部分を、人工芝、あればですけども、雷等以外は使えるという観点で、数日というものは…これはあくまでもデータのなものでございます。また北九州市なんかの県立高校なんかにおきましては、人工芝において設置した理由に、防災拠点の位置づけ。普通の天然芝や土なんか

の場合ですと、雨ですね、非常に水たまりとかあって、そこに急遽対応できないという観点も含めてやった実証実験的な人工芝もあります。また砂ぼこりなんかの対応できるということも踏まえてやってるようなこともございますので、そうしたものを加味しながら、住民の皆様と、町民の皆様とですね、協議しながら進んでいくという形で考えていきたいと思っております。

また一時的な駐車場の利用、これ、よみうりランドのプールですね、2か月ぐらいかな、これも過去に実証実験やって、どのくらい耐久性があるかということで、大きな影響はないというような業者からとよみうりランドの管理者からも聞いておりますが、やっぱり車が入る以上は多少のあれはあるということも含めてですね、今後検証をしていきたいというふうに考えてございます。

また一番最終的にはですね、いわゆる排水の問題だと思うんですけども。そこをどう今後やっていくかと。排水のところはどう抑えるかという取組が今いろんな企業さんが取り組む中で、5個の課題を克服することを条件に人工芝を設置するということになりますので、そこに排水の問題があるので、その排水をいかに海に流さないかというところを研究しておりますので、その辺も含めて今後調整していけばなというふうに思います。以上です。

4 番 平 野      ありがとうございます。ちょっと時間がなくなってきたのであれですが。今こういうふうに質問ね、あとお答えいただいただけでも、随分いろいろな論点、あとはいろいろ新しい情報が入ってきてるなというふうに感じました。このことをやはり町民も巻き込んだ議論が必要なのではないかと思いますので、年頭に上がっていたSDGsのプラットフォーム事業ですね。あれなどを利用して、こういった議論をぜひやっていただきたいなと思っておりますので。これは要望としてぜひお願いいたします。

また3番につながることは、人工芝、個人の庭などでもすぐ使われているので、ぜひしっかりと取り組んでいただきたいと思いますが。1つだけちょっとお勧めの映画があるので、こちらをちょっと挙げて終わりにしたいと思いますが。「マイクロプラスチックストーリー」という映画がございます。これは子供たちが主演になっていて、アメリカの映画なんです。ドキュメンタリーで、このプラスチック問題を学ぶということを2年にわたって学校でやるということをやって、どれだけみんなが学び、議論をし、実際に行動していったというドキュメンタリーなので、ぜひ、もしやるのならこの映画などを取り上げていただければなというふうに思います。実際にこの横浜の子供たちがこれを見て動き出したというのがありまして、学校の給食のストローの削減につながったという話なので、ぜひ松田の学校でもそういった議論が行われるといいなと思います。こういったことはやはり町民全体の協力がないとできないことですので、ぜひ啓発のほうも頑張ってくださいと思います。

時間が押してますので、これで私の一般質問を終わりにいたします。ありがとうございました。

議

長 以上で受付番号第3号、平野由里子君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。なお、休憩中に昼食をとっていただき、午後は1時から再開いたします。 (11時20分)